

平成20年度森林整備革新的取組支援事業の試行的課題の選定一覧

番号	モデル地域名	申請者名	試行的課題	実施内容	備考
1	秋田	有限会社 猪股林業	小規模森林所有者の林地集約による素材生産の効率化	複数の小林班をまとめロット化、作業員に区画境界を報知し、伐倒時に効率よくマーキング・自動検尺できるハーベスタを使用する。	
2	奥久慈八溝	西白河地方森林組合	高密度作業路網による間伐生産効率向上事業	作業路開設のバックホウはヘッド交換により掘削と支障木排除を行いコスト低減を図り、プロセッサ等高性能機械によりA・B・C材の高度利用に努め林地残材を減らす。	101
3	岐阜広域 中日本圏域	飛騨市森林組合	地形条件に応じた間伐材低コスト搬出作業システム実証事業等	プロセッサ等高性能機械による効率的な搬出システムの実証とクマ剥ぎ被害の防止対策を行う。	21011
4	中日本圏域	中津川市森林組合	福岡 柏原川流域 山づくりプロジェクト	軽作業路を開設し、ウインチ付グラブプル及びスイングヤーダによる全木集材で、架線設置・短幹集材の工程を省略する。	21001
5	岐阜広域 中日本圏域	東白川村森林組合	ストローク式ハーベスタとウインチ付バックホウによる作業路開設と間伐事業	作業路開設から木材搬出までの一貫した事業を行い、幅員2.5mの道と最小限の機械によるシステムを実証する。	20105
6	岐阜広域 中日本圏域	株式会社 カネキ野村木材店	路網整備と高性能林業機械及びロングリーチグラブプルを活用した効率的な間伐事業	急峻な地形で地質条件も悪い、作業路開設に消極的な地域で、ロングリーチグラブプルを導入し効率的な木寄せ作業を行う。	21027
7	中日本圏域	愛知県森林組合連合会	下刈省力と獣害対策による疎植造林技術の実証	樹皮敷設による下刈等作業の省力、ヘキサチューブや海苔網による獣害対策、疎植造林（通常3,000本 1,000本）を組み合わせコスト削減を図る。	211
8	中日本圏域	財団法人 古橋会	高性能林業機械による複層林上木間伐	複層林施業における上木間伐作業の生産性向上と低コスト化を図り、下層木への被害を最小限に留めることを目的に、路網整備と高性能機械の組合せによる上木間伐作業の開発を目指す。	
9	中日本圏域	松阪飯南森林組合	従来の架線集材と高性能林業機械（プロセッサ）を組み合わせた全木集材方法による再造林の大幅コスト削減 “地捨えなし再造林施業” の構築	全木集材により林地に伐採木の残枝を残さず、地捨え費用を不要とする。	209
10	中日本圏域	前田商行株式会社	低コスト造林試験林造成事業	乾燥・痩せ地に強く、獣害にあっても幹が成長し、下刈をしなくても成林すると思われる品種の苗木を植栽する。	
11	岡山	前田林業株式会社	コンテナ苗の育成による植林費の軽減にむけてpart2	根の変形が起こりにくい特殊な容器で育成した培地付苗（コンテナ苗）を専用の植栽器具（プランティングチューブ）を用いて、植栽効率の大幅な向上を図る。	10100
12	四国地域	徳島県森林組合連合会	「4存1伐クロス」高技術列状間伐の導入実証事業	定性間伐より生産性が高く、2存1伐列状間伐より伐採列が目立たない、より高度な仕上がりとなる「4存1伐クロス」列状間伐を現地実証する。	20100
13	四国地域	徳島県林材業協同組合	モザイク型小規模伐採と大苗植栽による低コストシステムの実証	列状間伐と同じ1/3程度の伐採率でモザイク型に小規模伐採とし、林地への環境負荷を低減する。また、獣害防止、植栽コスト低減のため大苗を疎植する。	20600
14	四国地域	久万広域森林組合	持続的な森林経営のための年齢構成変更を目的とした施業方法の開発	林分を25～30m四方のブロックに分割し、5年ごとに順次群状択伐することで偏った年齢構成を平準化する。伐採後の更新は、チップパーの枝条粉碎による地捨えの省略、2,000本/ha程度の疎植、下刈省略。	10300
15	高知中央・ 東部地域	大豊林業株式会社	施業団地での路網を活用した間伐における高性能林業機械の導入	幅員3m程度の作業路をできるだけ高密度に配置し、高性能林業機械（スイングヤーダ、プロセッサ）の組合せにより、生産性向上・生産コスト低減を図る。	
16	高知中央・ 東部地域	大正町森林組合	高密度作業路開設による高性能林業機械を使った効率的な搬出間伐作業	作業路幅員を3mとし、集材作業に中型(0.25m ³)の高性能林業機械(プロセッサ)を取り入れ、生産性向上に取り組む。	
17	熊本	株式会社 泉林業	小面積皆伐と植栽	年間収入確保のため小面積を皆伐し、伐採木は葉枯らし乾燥後全木集材するため、地捨えを省き、植栽は1,250本/haの疎植と広葉樹の天然更新とする。獣害対策として、下刈は全刈・筋刈・坪刈等比較調査する。	201
18	大分	マルマタ林業株式会社	効率的非皆伐施業	従来の施業[皆伐 再造林(2,500本/ha) 下刈(全刈6年)]を、[間伐+択伐 再造林(1,500本/ha大苗生分解性ポット) 下刈(坪刈3～6年)]としてコストダウンを図る。	107
19	宮崎	宮崎中央森林組合	低コスト保残木施業システム普及事業（高性能林業機械による伐出作業システムの導入）	長崎県鍋島家山林において取り組まれている、大径木の生産と収益の増大を基本としている保残木施業を実施する。50～80年生スギ又はヒノキの優良木を50本/haだけ残し伐採し、下層に3,500～4,000本/ha植栽する。	10308
20	鹿児島圏域	曾於市森林組合	小径木の活用と再造林に配慮した皆伐作業及び高性能林業機械を利用した定性間伐の実証調査	採算が合わないため林地に放置されている皆伐後の枝条をチップパーで粉碎し、基幹産業の畜産施設敷料として利用する。高性能機械を利用した定性間伐を行うための技術の検討と生産性等を実証する。	22401
21	鹿児島圏域	上野物産株式会社	高効率低コスト作業システム構築事業	高性能林業機械を個別的ではなく連携して動かし、効果的な運用システムを導入し、高効率低コスト作業システムを構築する。	22003

備考欄の数値は、システム事業体番号